



# 海軍公報

第五〇八六號

昭和二十年八月一日(水)

海軍大臣官房

## ○令 達

達第一七一號

海軍陸上部隊、官衙、學校、航空機等ニ於ケル軍艦旗掲揚ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年七月三十一日

海軍大臣 臣

第一條中「海軍病院、」ノ下ニ「地方海軍部、」ヲ加フ

(諸例則卷四、一八二ノ一頁参照)

内令第六六〇號(軍艦秘海軍公報第一七三號(乙配付)ニ掲載)

内令第六六一號

潜水隊編制申左ノ通改定セラル

昭和二十年七月二十日

海軍大臣 臣

第三十三潜水隊ノ項中「伊號第五百五十五」、「呂號第六十七、」及「波號第二百一、波號第二百二、」ヲ削ル  
第三十四潜水隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第五十二潜水隊 波號第二百一、波號第二百二、波號第二百五

(内令提要卷一、七〇頁参照)

秘海軍公報 第五〇八六號 昭和二十年八月一日

内令第六六二號

吳鎮守府練習兼警備潜水艦 伊號第五百五十五潜水艦  
舞鶴鎮守府練習兼警備潜水艦 呂號第六十七潜水艦

吳鎮守府豫備潜水艦

右第四豫備潜水艦ト定ム 伊號第五百五十五潜水艦

横須賀鎮守府豫備特務艦

右在役特務艦ト定ム 特務艦 大 濱

昭和二十年七月二十日

海軍大臣 臣

内令第六六三號

舞鶴鎮守府在籍

右帝國潜水艦籍ヨリ除カル 呂號第六十七潜水艦

昭和二十年七月二十日

海軍大臣 臣

内令第六六四號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

八三九

昭和二十年七月二十日

海軍大臣

「第十六突撃隊」ヲ「第十五突撃隊」ニ改ム

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

〇 通 牒

軍務三機密第八二八號

昭和二十年七月二十六日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

製鹽關係事項ノ主務ニ關スル件申進

首題ノ件左記ニ依ルコトニ定メラレ候條主務部局トノ連繫ヲ緊密ニシ廳内工作力及手持資材ノ全幅活用ニ依リ極力自家製鹽ノ増強ニ努メラレ度

一 記

一部内製鹽

一 般 軍務局

技 術 艦政本部

二 國家製鹽

(イ) 軍務局第二課(政策)及第三課(生産ノ指導、監査、統制)ニ於テ夫々所掌ニ從ヒ連絡處理ス

(ロ) 資材技術等ノ協力實施ハ軍務局仲介艦政本部主トシテ之ニ當ル

〇 雜 載

〇 正 誤  
醫務機密第一三七號「地下蟻居住(作業)ノ保健衛生指導要領」

頁 行

誤

正

二頁一行

入口等ニ「扉」カ「カーテン」等ヲ

入口等ニ「扉」、「カーテン」等ヲ

三頁一行

$P = \frac{1}{16} V^2$

$P = \frac{1}{16} V^2$

〃 三行

(Kg/m)

(Kg/m<sup>2</sup>)

〃 九行

温乾空氣、高濕ノ場合

温乾空氣、高温高濕ノ場合

一〇頁九行

内部施行ニ枚張り

内部施行ニ枚張り

一三頁二行

一般ニ少キニ過ゴルヲ以テ

一般ニ少キニ過グルヲ以テ

一三頁

附圖(一)

「幅同ジ」「狭シ」ハ不要

一四頁五行

男吸別

男女別

一六頁六行

地上農耕作等場

地上農耕作等場

〇本日軍秘海軍公報第一七二號(乙配付)發行セリ  
配付先  
各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、同支廠



海軍公報 第五〇八七號

昭和二十年八月二日(木) 海軍大臣官房

命令

内令第六八七號

特設海軍運輸部令左ノ通改正セラル

昭和二十年八月一日

海軍大臣

特設海軍運輸部令

第一條 戰時又ハ事變中東京ニ海軍運輸本部ヲ置ク

第二條 海軍運輸本部ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 運輸ニ關スル事項

二 補給ニ關スル各部ノ連絡ニ關スル事項

三 海上護衛機關トノ連絡ニ關スル事項

第三條 海軍運輸本部ニ總務課、會計課、第一課及第二課ヲ置

第四條 各課事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第五條 海軍運輸本部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長

課長

部員

附

第六條 本部長ハ海軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理ス但シ作戦ニ關ス

秘海軍公報 第五〇八七號 昭和二十年八月二日

ル事項ニ關シテハ軍令部總長ノ指示ヲ承ク  
本部長ハ運輸ニ關シ所要ノ事項ニ付テハ特設海軍運輸部長  
指示ヲ爲スコトヲ得

第七條 本部長ハ部下職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員  
ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第八條 本部長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從  
ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ海軍大臣特ニ代理者ヲ置キタル場合  
ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 課長ハ本部長ノ命ヲ承ケ各課ノ事務ヲ掌理ス  
前項ノ外總務課長ハ本部長ヲ佐ケ部務ヲ整理ス

第十條 部員及附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十一條 本部長ハ必要ニ應ジ海軍運輸本部ノ出張所ヲ置キ部  
務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十二條 海軍運輸本部ノ定員ハ別表ニ依ル  
(別表添)

内令第六八八號

特設海軍運輸部令左ノ通定メラル

昭和二十年八月一日

海軍大臣

特設海軍運輸部令

第一條 特設海軍運輸部ノ所管、所屬、名稱及所在地別表第一ノ如シ

第二條 特設海軍運輸部ハ所屬ノ鎮守府、警備府、商港警備府又ハ艦隊ノ作戰分擔區域内(分擔區域ニ關聯スル地域ヲ含ム)ニ於ケル作戰運輸及其ノ他ノ運輸ノ實施並ニ此等ニ關聯スル事項ヲ掌ル

第三條 特設海軍運輸部ニ必要ニ應ジ艦船部隊等ヲ附屬ス

第四條 特設海軍運輸部ニ支部ヲ置ク其ノ所在地及名稱別表第二ノ如シ

支部ハ特設海軍運輸部ノ部務ノ一部ヲ分掌ス

第五條 特設海軍運輸部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長  
部員  
分隊長  
附

前項職員ノ外必要ニ應ジ參謀ヲ置クコトヲ得

特設海軍運輸部ノ支部ニ左ノ職員ヲ置ク

支部長  
部員  
分隊長  
附

第六條 部長ハ所屬ノ司令長官ニ隸シ部下ノ艦船部隊ヲ指揮統

率シ軍紀風紀ヲ維持シ部務ヲ總理ス

第七條 部長ハ必要ニ應ジ所屬ノ司令長官ノ定ムル所ニ依リ運輸ニ關シ運送輸送基地ノ指揮官ヲ區處スルコトヲ得

第八條 部長ハ必要ニ應ジ部及支部ノ部員及附ノ配屬ヲ臨時變更シ又附屬ノ艦船部隊ノ職員ヲ附屬ノ他ノ艦船部隊ニ臨時配置スルコトヲ得

第九條 部長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十條 部長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ將校軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ所屬ノ司令長官特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 支部長ハ部長ノ命ヲ承ケ部下ヲ指揮統率シ軍紀風紀ヲ維持シ支部ノ部務ヲ掌理ス

第十二條 參謀ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條 部員、分隊長及附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 特設海軍運輸部又ハ支部ノ派遣隊ヲ置キ各其ノ部務ノ一部ヲ分掌セシム

前項ノ派遣隊ノ所在地及名稱別表第三ノ如シ

第十五條 部長ハ必要ニ應ジ前條ノ派遣隊ノ所在地以外ノ地ニ臨時派遣隊ヲ置クコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ部長ハ之ヲ海軍大臣及軍令部總長ニ報告スベシ

第十六條 海軍大臣ハ必要ニ應ジ特設海軍運輸部支部長ヲシテ

部長監督ノ下ニ於テ支部ニ關スル特設海軍運輸部事務ノ一部ヲ管掌セシムルコトヲ得

第十七條 特設海軍運輸部及支部ノ定員ハ別表第四及第五ニ依ル

(別表添)

内令第六八九號

特設海軍運輸部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年八月一日

海軍大臣

題名ヲ左ノ如ク改ム

特設海軍運輸本部處務規程

第二條中「及海軍運輸部」ヲ削ル

第四條 削除

第五條中「及部長」ヲ削ル

第六條中「及海軍運輸部」及「又ハ部長」ヲ削リ「特設海軍運輸部令第十四條又ハ第十五條」ヲ「特設海軍運輸部令第八條」ニ改ム

第八條乃至第十一條中「海軍運輸本部」ヲ削ル

第八條中第五號ヲ第六號トシ以下順次繰下テ第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五 運輸部關係ノ勞務ニ關スルコト

第九條第四號ヲ第四號トシ以下順次繰上テ

第九條第四號ヲ第四號トシ以下順次繰上テ

第十二條乃至第十六條ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ六七頁參照)

内令第六九〇號

特設海軍運輸部服務規程左ノ通定ム

昭和二十年八月一日

海軍大臣

特設海軍運輸部服務規程

第一條 特設海軍運輸部ハ關係各部ト十分ニ氣脈ヲ通スベシ

第二條 部長ハ部内ノ内規ヲ定メ所屬長官ノ認許ヲ受ケ之ヲ施行スベシ

第三條 部長ハ所屬ノ船艇ヲ整備スベシ

第四條 部長ハ特設海軍運輸部令第八條ノ規定ニ依リ人員ヲ移動シタルトキハ士官及高等文官ニ在リテハ海軍大臣ニ、特務士官以下ニ在リテハ本人在籍ノ鎮守府司令長官ニ報告スベシ

第五條 特設海軍運輸部令第十條ノ規定ニ依リ部長ノ職務ヲ代理シタルトキハ代理者ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

第六條 特設海軍運輸部令第十六條ノ規定ニ依リ特設海軍運輸部支部ノ管掌スベキ事項左ノ如シ

支部關係事項中左ノ事項ヲ除キタル事項

一 將來計畫ニ關スル事項

二 例規規則ノ制定及改變ニ關スル事項

○ 選 議

秘海軍公報 第五〇八七號 昭和二十年八月二日

八四三

軍務一機密第六四六號

昭和二十年八月一日

海軍省軍務局次長

各廳長殿

火藥類ノ生産増強ニ關スル件通知

首題ノ件別紙ノ通閣議決定ヲ見タルニ付之方周知ヲ圖リ且運營ニ關シ遺憾ナキヲ期セラレ度

(別紙)

火藥類ノ生産増強ニ關スル件

戦局ノ進展ニ對應シ對敵兵器ノ基幹タルベキ火藥類ノ緊急生産増強ヲ圖ルハ刻下ノ急務ニシテ政府ハ之方増産確保ニ關シ各般ニ互リ最優先的取扱ヲ爲スコトトシ之方爲關係各廳ハ相協力シ左記事項ヲ緊急ニ實施スルモノトス

記

一 火藥用原料資材ノ確保、資材ノ機器化、機器ノ補修、勞務ノ補充並ニ原料及製品ノ輸送等ノ各面ニ於テ優先的取扱ヲナスコト

二 火藥類ノ主原料タル濃硝酸並ニ硝安ノ増産ハ刻下火藥類緊急生産増強ノ基礎タルニ鑑ミ其ノ製造設備能力ノ全幅稼働ヲ圖リ生産ヲ確保スルト共ニ右ニヨル硝安ノ減産ヲ防止スル爲原料アンモニアノ生産増強ニ關シ前項ニ準ジ特段ノ措置ヲ講ズルコト

三 直接火藥原料トナルベキ工業鹽ニ關シテハ其ノ最低所要量

ハ之ヲ確保スルト共ニ爲シ得ル限り最小限ノ常時保有量ヲ確保スル如ク措置スルコト

四 ベンゾール類ノ生産増強ヲ圖ル爲コークス爐裝入原料炭ノ増強、發生セルコークスノ處理等ニ關シ特段ノ措置ヲ講ズルコト

五 火藥原料及火藥製造工場ノ防衛ニ關シ急速ニ所要ノ處置ヲ講ジ必要ニ應ジ兵力ニヨル防衛ヲ圖ルコト

六 火藥類ノ緊急増産確保ノ爲之ニ關係アル各部末端行政機關ノ整備強化ヲ圖ルト共ニ現地ニ於ケル各部ノ連絡ヲ緊密ナラシムル爲所要ノ措置ヲ講ズルコト

經契機密第五號

昭和二十年七月一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

陸上勤務下士官、兵加配米ニ關スル件照會

從來陸上勤務下士官、兵ハ武技演練等ノ重勞務ニ服スルモノニ對シテノミ日額二一〇瓦ノ加配ヲ各家庭ニ於テ受配シ居タル處主要糧食品配給制度ノ改正ニ依リ各家庭ニ於ケル加配米ノ受配ハ一切停止セラレタルヲ以テ自今各作業廳、港務部等ニ於ケル現場作業ニ従事スル者及各廳ニ於テ武技演練等ノ重勞務ニ服スル者ニシテ官ヨリ糧食ノ給與ヲ受ケザルモノニ對シテハ左記ニ依リ各廳ニ對シ加配ノコトニナリタルニ付可然取計相成度

記

<p>一 關係所屬長ハ三、六、九、十二月五日迄ニ勞務ノ種類及毎四半期ノ豫定延員數ヲ海軍省經理局ニ通知スルモノトス          二 海軍省經理局ハ農商省ト協議ノ上三、六、九、十二月末迄ニ各廳ニ割當スルモノトス          三 各廳ハ前號割當ニ依リ各都道府縣食糧事務所ヨリ受配給食スルモノトス</p>	<p>艦本機密第一號ノ九八一四          二月十八日艦本機密第九號ノ三四一五制定艦本戰時規格機密ノ部中左記ノ通改正ス          昭和二十年八月一日          海軍艦政本部長</p>	<p>艦格第一號(頁5)砲身鋼種別第七種中          抗張試驗仲 「上」ヲ「上」ニ改ム          衡撃値 「(15)2,074」ヲ「(10)1,382」ニ改ム</p>	<p>○雜 談</p>	<p>○事務開始          事務所名 設置場所 事務開始月日 記 事          第九三六海軍航空隊東印派遣隊 セ式壺 セ壺九 五月一九日          第二南遣艦隊附屬水上機隊ハ五月十五日附解隊當隊ニ郵便物發送先ニセ式壺 セ壺九ヲ吳局氣付「セ式壺 セ壺九」</p>														
<table border="1"> <tr> <td>第一〇八一海軍航空隊横濱派遣隊</td> <td>横濱市磯子區横濱航空基地内</td> <td>七月二五日</td> <td>郵便物發送先 横濱市磯子氣付「ウ四壺七ウ貳貳」</td> </tr> <tr> <td>第一〇二一海軍航空隊殘務整理班</td> <td>横濱市磯子區横濱航空基地内</td> <td>同</td> <td>郵便物發送先 横濱市磯子局氣付「ウ參貳七」</td> </tr> <tr> <td>第二十一聯合航空隊司令部殘務整理班</td> <td>松山市大字久萬ノ松</td> <td>同</td> <td>電話 松山 一八八〇番 郵便物發送先 松山局氣付「ウ六登參」</td> </tr> <tr> <td>第一百十二驅潜艇隊殘務整理班</td> <td>三重縣北牟婁郡本町町内本海軍基地内</td> <td>七月二五日</td> <td></td> </tr> </table>	第一〇八一海軍航空隊横濱派遣隊	横濱市磯子區横濱航空基地内	七月二五日	郵便物發送先 横濱市磯子氣付「ウ四壺七ウ貳貳」	第一〇二一海軍航空隊殘務整理班	横濱市磯子區横濱航空基地内	同	郵便物發送先 横濱市磯子局氣付「ウ參貳七」	第二十一聯合航空隊司令部殘務整理班	松山市大字久萬ノ松	同	電話 松山 一八八〇番 郵便物發送先 松山局氣付「ウ六登參」	第一百十二驅潜艇隊殘務整理班	三重縣北牟婁郡本町町内本海軍基地内	七月二五日		<p>○轉勤者赴任先          當分ノ開當隊ヘノ赴任轉勤者ハ左ニ依ラレ度          日豊線 柳ヶ浦下車          追テ旅費ハ同基地迄前金拂(家族移轉料支給上ノ勤務地ハ横須賀市)ノコトニ取計ハレ度          (第二〇三海軍航空隊宇佐派遣隊)          (戰團第三〇三飛行隊)</p>	<p>○支那方面旅行者ニ關スル件          支那方面旅行者ハ左記ニ依リ取計ハレ度          記          一 大陸廻リ本邦支那間旅行者          (イ) 本邦ヨリノ旅行者ハ山海關迄割引乗車券ニ依リ切符購入ノコト          (ロ) 山海關停車場司令部ニ於テ山海關ヨリ目的地ニ至ル迄ノ公務運賃後拂證ノ交付ヲ受ケ直ニ切符ト引替ヘ旅行ノコト</p>
第一〇八一海軍航空隊横濱派遣隊	横濱市磯子區横濱航空基地内	七月二五日	郵便物發送先 横濱市磯子氣付「ウ四壺七ウ貳貳」															
第一〇二一海軍航空隊殘務整理班	横濱市磯子區横濱航空基地内	同	郵便物發送先 横濱市磯子局氣付「ウ參貳七」															
第二十一聯合航空隊司令部殘務整理班	松山市大字久萬ノ松	同	電話 松山 一八八〇番 郵便物發送先 松山局氣付「ウ六登參」															
第一百十二驅潜艇隊殘務整理班	三重縣北牟婁郡本町町内本海軍基地内	七月二五日																

秘海軍公報 第五〇八七號 昭和二十年八月二日

八四五

- 二 大陸廻リ支那本邦用旅行者
  - (イ) 支那ヨリノ旅行者ハ出發廳ニ於テ山海關迄ノ公務運賃後拂證ノ交付ヲ受ケ乘車驛ニ於テ切符ト引替ヘ旅行ノコト
  - (ロ) 山海關ニ於テ割引乘車券ニ依リ目的地ニ至ル迄ノ切符購入ノコト

- 三 支那國內旅行者
  - 出發廳ニ於テ公務運賃後拂證ノ交付ヲ受ケ乘車驛ニ於テ切符ト引替ヘ旅行ノコト
- 四 急行料金後拂證
  - 前三項該當者ニシテ急行車ニ乗車ノ場合ハ公務運賃後拂證ノ外ニ急行料金後拂證ノ交付ヲ受ケ所要驛ニ於テ急行券ト引替ヘヲ要ス

- 五 上海―山海關相互間後拂證發行數左ノ通

公務運賃後拂證		急行料金後拂證	
自上海	一至上海	自上海	一至上海
至山海關	二枚	自天津	二枚
		自天津	一枚
		自天津	一枚

(第一海軍經理部)

○削除  
七月二十一日秘海軍公報第五〇七五號令達欄内令第六二〇號全文及内令第六二四號中「同第八日東丸」ヲ削除ス

○正誤  
七月二十三日附秘海軍公報款關練習生教育中止ニ伴フ銓衡試験ニ依ル特技章付與ノ件ノ項中「官房教機密第三〇九號」ハ「官房人機密第四一一號」ノ誤  
○本日軍極秘海軍公報第一七三號(甲配付)發行セリ





(内令第六八八號別表第二)

舞鶴鎮守府		佐世保鎮守府				吳鎮守府				横須賀鎮守府				所管	特設	
第二南遣艦隊	舞鶴鎮守府	第一南遣艦隊	海南警備府	高雄警備府	鎮海警備府	佐世保鎮守府	第三南遣艦隊	支那方面艦隊	大阪警備府	吳鎮守府	第四艦隊	第二遣支艦隊	大湊警備府	横須賀鎮守府	所屬	運輸部
スラバヤ海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	昭南海軍運輸部	榆林海軍運輸部	基隆海軍運輸部	鎮海海軍運輸部	佐世保海軍運輸部	マニラ海軍運輸部	上海海軍運輸部	大阪海軍運輸部	吳海軍運輸部	トラツク海軍運輸部	香港海軍運輸部	大湊海軍運輸部	横須賀海軍運輸部	名稱	所在地
スラバヤ	舞鶴	昭南	榆林	基隆	鎮海	佐世保	マニラ	上海	大阪	吳	トラツク	香港	大湊	横須賀		

(昭和二十年八月二日秘海軍公報)

特設海軍運輸部ノ支部(甲)										
所在地	名									
稱	稱									
青島	上海	釜山	神戶	室蘭	新潟	長崎	高松	門司	名古屋	横濱
支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支
部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部
青島	釜山	神戶	室蘭	新潟	長崎	高松	門司	名古屋	横濱	横須賀
支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支
部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部
青島	釜山	神戶	室蘭	新潟	長崎	高松	門司	名古屋	横濱	横須賀
支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支
部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部

(内令第六八八號別表第二(其ノ一))

(昭和二十年八月二日海軍公報)

所 在 地	東 京	清 水	四 日 市	塩 釜	徳 山	伏 木	敦 賀	境 賀	酒 田	小 樽	函 館	八 戸	船 川	大 連	元 山	馬 山	羅 津	馬 津	海 公	西 貢	サ バ ン	タ ラ カ ン	バ リ ツ ク パ ン	マ カ ツ サ ル	メ ナ ド	サ マ リ ン ダ	グ バ オ
名	横須賀海軍運輸部	横須賀海軍運輸部	横須賀海軍運輸部	呉海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	大湊海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部	舞鶴海軍運輸部
稱	東京支	清水支	四日市支	塩釜支	徳山支	伏木支	敦賀支	境賀支	酒田支	小樽支	函館支	八戸支	船川支	大連支	元山支	馬山支	羅津支	馬津支	海公支	西貢支	サバン支	タラカン支	バリツクパン支	マカツサル支	メナド支	サマリンド支	グバオ支

(内令第六八八號別表第二(其ノ二))

(昭和二十年八月二日海軍公報)

所 在 地		名		稱	
所 在 地	名	稱	所 在 地	名	稱
霞ヶ浦	横須賀海軍運輸部	霞ヶ浦派遣隊	霞ヶ浦	横須賀海軍運輸部	霞ヶ浦派遣隊
高座	横須賀海軍運輸部	高座派遣隊	高座	横須賀海軍運輸部	高座派遣隊
館山		館山派遣隊	館山		館山派遣隊
仙臺	吳海軍運輸部	仙臺派遣隊	仙臺	吳海軍運輸部	仙臺派遣隊
佐伯		佐伯派遣隊	佐伯		佐伯派遣隊
光	吳海軍運輸部	光派遣隊	光	吳海軍運輸部	光派遣隊
佐伯		佐伯派遣隊	佐伯		佐伯派遣隊
廣島	高松支部	廣島派遣隊	廣島	高松支部	廣島派遣隊
新居濱		新居濱派遣隊	新居濱		新居濱派遣隊
八幡	佐世保海軍運輸部	八幡派遣隊	八幡	佐世保海軍運輸部	八幡派遣隊
若松		若松派遣隊	若松		若松派遣隊
西戸崎	佐世保海軍運輸部	西戸崎派遣隊	西戸崎	佐世保海軍運輸部	西戸崎派遣隊
博多		博多派遣隊	博多		博多派遣隊
三池	舞鶴海軍運輸部	三池派遣隊	三池	舞鶴海軍運輸部	三池派遣隊
鹿兒島		鹿兒島派遣隊	鹿兒島		鹿兒島派遣隊
富山	大湊海軍運輸部	富山派遣隊	富山	大湊海軍運輸部	富山派遣隊
七尾		七尾派遣隊	七尾		七尾派遣隊
釧路	大湊海軍運輸部	釧路派遣隊	釧路	大湊海軍運輸部	釧路派遣隊
札幌		札幌派遣隊	札幌		札幌派遣隊
青森	大湊海軍運輸部	青森派遣隊	青森	大湊海軍運輸部	青森派遣隊
根室		根室派遣隊	根室		根室派遣隊
幌筈	小樽支部	幌筈派遣隊	幌筈	小樽支部	幌筈派遣隊
留萌		留萌派遣隊	留萌		留萌派遣隊
下津	大湊海軍運輸部	下津派遣隊	下津	大湊海軍運輸部	下津派遣隊
麗水		麗水派遣隊	麗水		麗水派遣隊
鎮南	基隆海軍運輸部	鎮南派遣隊	鎮南	基隆海軍運輸部	鎮南派遣隊
京城		京城派遣隊	京城		京城派遣隊
高所	基隆海軍運輸部	高所派遣隊	高所	基隆海軍運輸部	高所派遣隊
八所		八所派遣隊	八所		八所派遣隊
彼南	昭南海軍運輸部	彼南派遣隊	彼南	昭南海軍運輸部	彼南派遣隊
海防		海防派遣隊	海防		海防派遣隊
サンジャック	昭南海軍運輸部	サンジャック派遣隊	サンジャック	昭南海軍運輸部	サンジャック派遣隊
シヤカルタ		シヤカルタ派遣隊	シヤカルタ		シヤカルタ派遣隊

(内令第六八八號別表第三)

(昭和二十年八月二日海軍公報)

特設海軍運輸部及支部ノ派遣隊





(内令第六八八號別表第五)

(昭和二十年八月二日海軍公報)

考	備	計					附	員部			支部長
		下	准	豫	特	士		主	中	少	
	一 本表ノ外兼務部員ヲ置キ所在地ノ軍需部、港務部、經理部、施設部、工務部及航空廠ノ部員各一人ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得 二 下士官ノ科別ハ指定科別ニ依ラザルコトヲ得 三 本表ノ外必要ニ應ジ附トシテ他省ノ文官、軍屬其ノ他ノ人員ヲ置クコトヲ得 四 本表ノ外派遣隊一隊ニ付部員又ハ附トシテ佐尉官一人、附トシテ兵曹長又ハ機關兵曹長一人、兵曹又ハ機關兵曹二人ヲ置ク 五 海軍大臣ハ必要ニ應ジ本表ノ定員ヲ臨時増減スルコトヲ得 六 特修兵ハ掌經理兵一ノ外適宜トス	十人	二人	三人	二人	三人	主計官 兵曹 兵曹長 兵曹長 中尉(水機) 中尉(豫)	主計少尉(水機) 主計中尉(水機) 主計少尉(豫)	大尉(水機) 大尉(豫)	大佐 中佐 大尉	甲
		一 本表ノ外兼務部員ヲ置キ所在地ノ軍需部、港務部、經理部、施設部、工務部、航空廠、燃料廠、海南特務部及民政部ノ部員各一人ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得 二 支部長ニハ必要ニ應ジ相當官階ノ主計科士官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得 三 下士官ノ科別ハ指定科別ニ依ラザルコトヲ得 四 本表ノ外必要ニ應ジ附トシテ他省ノ文官、軍屬其ノ他ノ人員ヲ置クコトヲ得 五 本表ノ外派遣隊一隊ニ付部員又ハ附トシテ佐尉官一人、附トシテ兵曹長又ハ機關兵曹長一人、兵曹又ハ機關兵曹二人ヲ置ク 六 海軍大臣ハ必要ニ應ジ本表ノ定員ヲ臨時増減スルコトヲ得 七 特修兵ハ掌經理兵一ノ外適宜トス	五人	二人	一人	一人	二人	主計官 兵曹 兵曹長 兵曹長 中尉(水機、豫)	主計少尉(水機) 主計中尉(水機) 主計少尉(豫)	大尉(水機) 大尉(豫)	兵科佐官

特設海軍運輸部支部定員表



秘

海軍公報 第五〇八八號

昭和二十年八月三日(金) 海軍大臣官房

〇令 第

内令第六六五號

海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年七月二十三日

海軍大臣

第一海防隊ノ項中「神津、」ノ下ニ「伊唐、」ヲ加フ

第十二海防隊ノ項中「第百三十二號」ノ下ニ「第百五十六號」ヲ加フ

(内令提要卷一、七三頁参照)

内令第六六六號

第百五十三號哨戒特務艇

右本籍ヲ吳鎮守府卜定ム

昭和二十年七月二十三日

海軍大臣

内令第六六七號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年七月二十三日

海軍大臣

下關防備隊ノ項哨戒特務艇ノ欄「第百五十二號(吳)」ノ次ニ

秘海軍公報 第五〇八八號 昭和二十年八月三日

「第百五十三號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

官房經機密第四四二號

海軍關係部外工場副資材類供給ニ關スル臨時措置左ノ通定ム

昭和二十年八月二日

海軍大臣

海軍關係部外工場副資材類供給ニ關スル臨時措置

第一條 海軍管理工場若ハ監督工場又ハ軍需品等海軍關係重要物資ノ生産輸送ニ當リツツアル工場事業場(以下單ニ部外工場ト稱ス)ニ於テ副資材類不足ノ爲作業ヲ阻害シツツアル場合ハ本措置ニ依リ海軍ノ現有資材ヲ供給スルコトヲ得

第二條 海軍省經理局長必要アリト認ムルトキハ部外工場ニ對シ經理局準備購入材料等ヲ供給セシムルコトヲ得

前項ノ部外工場海軍管理工場又ハ監督工場ナルトキハ海軍省經理局長ハ海軍監理長又ハ監督長(出張所首席監理官、監督官ヲ含メ以下單ニ監理長ト稱ス)ト氣脈ヲ通ジ之ヲ實施スベシ

第三條 海軍省經理局長ハ經理局準備購入材料物品會計官吏(以下經理局會計官吏ト稱ス)ヲシテ要スレバ直接最寄海軍工作廳其ノ他各部ニ所要資材ノ組替若ハ保管轉換又ハ工廠資金

八四七

材料ノ賣拂ノ請求ヲ爲サシムルコトヲ得  
海軍工作廳其ノ他各部ノ長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ緊急  
作業ニ差當リ支障ナキ限り之ニ應ズベシ

第四條 監理長ハ其ノ管區内部外工場ヲ調査シ副資材類不足ノ  
爲作業ニ支障アリト認ムル場合各工場ノ相互融通又ハ入手斡  
旋等ノ方法ニ依ルモ充足困難ナルモノノ品種數量ヲ嚴密ニ査  
定シ其ノ緊急需要量ノ供給ヲ所在經理局會計官吏ニ請求スベ  
シ

所在經理局會計官吏前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ海軍省經理  
局長ノ指示ニ從ヒ速ニ之ヲ供給スベシ

第五條 監理長ハ本措置ニ依リ供給シタル材料ニ付部外工場ニ  
於ケル使用狀況ヲ嚴重ニ監視シ濫費、浪費、橫流等ノ防止ニ  
任ズベシ

第六條 本措置ニ依ル材料供給ニ關シ必要ナル會計上ノ處理、  
整理ニ付テハ海軍省經理局長ノ定ムル所ニ依ル

第七條 本措置ノ運用ヲ圓滑ナラシムル爲海軍省軍需局長、海  
軍艦政本部長、海軍航空本部長、海軍施設本部長ハ海軍省經  
理局長ニ協力スベシ

官房經機密第四四三號

昭和二十年官房經機密第三五四號別表ニ左ヲ加フ

昭和二十年八月二日

海軍大臣

準備贈入材料物品出納命令官	準備贈入材料物品會計官吏
關東首席監督會計官(監理官)	
近畿首席監督會計官(監理官)	
東海首席監督會計官(監理官)	
各管轄區域勤務ノ監督會計官又ハ監 理官タル主任科士官	

○ 通 牒

官房需機密第二五九號

昭和二十年八月一日

海軍次官

關係各廳長殿

主食品節減並ニ備蓄ニ關スル件通牒  
今般官房需機密第一四一九二八番電ヲ以テ首題ノ件發令セラレ  
タル處右ハ國內主要食糧供給事情ニ鑑ミ政府ニ於テハ諸般ノ施  
策ヲ講ゼラレタルモ麥不作ニ因ル收穫激減並ニ滿鮮糧穀豫定量  
ノ輸移入極メテ不如意等ノ爲端境期迫ルニ從ヒ國內主要食糧極  
度ニ逼迫シ遂ニ國民一般ニ配給量ノ減額ヲ斷行セララルニ至リ  
軍需用ニ於テモ相當ノ規正ヲ受ケ蓄積用極メテ手持薄ノ狀況必  
至ヲ豫想セララルヲ以テ之方對策トシテ發令セラレタルモノナ  
ルニ付此ノ點ヲ知ノ上實情ヲ末端ニ至ル迄透達セシムルト共ニ  
左記ニ依リ實施ノコトニ取計相成度

記

一 減増給標準

主食品ノ減給ニ關シテハ聯合艦隊其ノ他一部ニ於テ既ニ自發的實施中ノ處今般一層節減ノ徹底ヲ期スル爲部内全般實施ヲ令セラレタルモノニシテ之ガ實施ハ左表ニ依ルコト

品種	官房需第二〇九號別	増(減)給標準額	記事
	表第一基本食日額		
米	五四〇瓦(四八〇瓦)	四八〇瓦(四三〇瓦)	
麥	一八〇瓦(一六〇瓦)	一六〇瓦(一四五瓦)	
生野菜	五二〇瓦	七〇〇瓦	

但シ生野菜ノ増給ニ關シテハ現物面ニ於テ規定量通ノ取得ハ極メテ困難ヲ豫想セララルルニ付差増額ハ努メテ部内生産ノ増強ニ依リ自給ヲ原則トシ已ムヲ得ザル事情ニ依リ之ヲ他ニ求ムル場合ハ季節及地方事情ヲ勘案ノ上民需ニ不當ノ壓迫ヲ加ヘザル様實施ノコト

二 精神指導

一般民需ハ僅ニ三〇瓦ノ處ヲ今般更ニ一割減額セラレ漸ク生存シ得ル程度ニ規正セラレタルニ對シ海軍ニ於テモ之ト歩調ヲ合セ軍民一體ト爲リ國家ノ食糧政策ニ積極的協力ヲ爲スモノナルコトヲ部下ニ理解セシメ敬肅觀念ヲ深ムルト共ニ官房需機密第一四一九二八番電ノ實効ヲ擧グル様精神指導ヲ爲スコト

三 兵員體位ノ保持

本減給ニ依リ兵員體位ノ低下ヲ招來スルガ如キコトアラバ山

秘海軍公報 第五〇八八號 昭和二十年八月三日

マシキ問題ナルニ付之ガ對策ニ付萬遺漏ナキヲ期スルコト  
(別紙添)

經豫機密第三號ノ五八

昭和二十年八月二日

海軍省 經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿  
日本銀行代理店設置ノ件通知  
國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店左記ノ通設置セラレ之ガ事務ヲ取扱フコトト相成候

記

印度支那 「グレート」  
泰國 「ハジヤイ」

○ 雜 款

○司令驅逐艦指定  
第十七驅逐隊司令ハ七月十九日司令驅逐艦ヲ雪風ニ指定セリ

○廳舎、部隊移轉

廳舎、部隊名	移 轉 先	移轉月日	記 事
橫須賀海軍經理部 仙臺支部	仙臺市南六軒丁 東北學院專門部	五月二〇日	旅行順路 仙臺驛下車徒歩約二十分
佐世保海軍運輸部 鹿兒島出張所	鹿兒島市平之町 五〇番地	七月八日	
第五十魚雷調整班	三重縣鈴鹿郡菟生村	七月八日	

第三千百十五設 營隊 (首藤部隊)	山口縣徳山市福 川町福川國民學 校内 七月二八日 旅行順路 山陽線福川驛下車徒歩約 十分 電話福川局 七六番 郵便物發送先 山口縣徳山市福川局氣付 首藤部隊
伏木港海警備隊	富山縣高岡市伏 木町伏木國民學 校内 七月三日 旅行順路 北陸本線高岡驛乗換永見 線伏木驛下車徒歩約十五 郵便物發送先 富山縣高岡市伏木町伏木 國民學校内
横須賀鎮守府第 十六特別陸戰隊	神奈川縣横須賀 市内公郷町曹源寺 七月二四日 旅行順路 横須賀線衣笠驛下車 郵便物發送先 横須賀局氣付 (派遣隊共) ウ七三三

○轉勤者赴任先  
 自今當隊へノ轉勤者ハ省線櫻井線丹波市驛下車又ハ奈良電鐵天  
 理驛下車ノコトニ取計ハレ度  
 (第五 陸上輸送隊)

當隊司令部附トシテ轉勤セシメラルベキ下士官、兵ハ北海道千  
 歳航空基地ニ向ケ赴任セシメラレ度  
 (第十二 航空艦隊)

○正誤  
 七月二十四日秘海軍公報第五〇七八號令達欄職時軍人軍屬旅費  
 特例中第十五條ノ二ノ次ニ「第十八條中「特務士官、准士官以  
 下ノ軍人ニ在リテハ本人在籍ノ鎮守府又ハ整備府ノ所在地」  
 シ削ル」ヲ脱ス

秘

海軍公報 第五〇八九號

昭和二十年八月四日(土) 海軍大臣官房

○令 達

達第一七〇號ノ二

昭和二十年七月二十七日

昭和二十年七月二十七日

昭保海軍工廠ニ於テ建造

波號第二百二十九潜水艦

内令第六一號ノ二

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正

昭和二十年七月十日

表ノ左ノ如ク改ム

海軍大臣

美幌航空基地	航空基地	管理部隊	北東海軍航空隊
北海道、千島及樺太所在ノ航空基地(北東海軍航空隊管理ノモノヲ除ク)	第十二航空隊	標津航空基地	千歳航空基地
美幌航空基地	樺山航空基地	第二千歳航空基地	第二千歳航空基地
		第二美幌航空基地	

厚岸航空基地	大湊航空基地	三澤航空基地	松島航空基地	神町航空基地	郡山航空基地	百里原航空基地	谷田部航空基地	霞ヶ浦航空基地	石岡航空基地	北浦航空基地	筑波航空基地	香取航空基地	茂原航空基地	木更津航空基地	第二横須賀航空基地	第三横須賀航空基地	
第九〇三海軍航空隊	横須賀海軍航空隊	奥羽海軍航空隊	鹿島海軍航空隊	第三航空隊	第三〇二海軍航空隊	第一〇一海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊
横濱航空基地	神ノ池航空基地	厚木航空基地	藤枝航空基地	明治航空基地	鈴鹿航空基地	第二鈴鹿航空基地	第三鈴鹿航空基地	伊賀上野航空基地	大和航空基地	第二大和航空基地	滋賀航空基地	姫路航空基地	福知山航空基地	徳島航空基地	第二徳島航空基地	高知航空基地	
第一〇一海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊	第三〇二海軍航空隊

秘海軍公報 第五〇八九號 昭和二十年八月四日

八五

第二高知航空基地	第三高知航空基地	觀音寺航空基地	西條航空基地	松山航空基地	岩國航空基地	詫間航空基地	福山航空基地	八丈島航空基地	父島航空基地	吳航空基地	申本航空基地	小松航空基地	峯山航空基地	美保航空基地	大社航空基地	築城航空基地	宇佐航空基地	大分航空基地	
内海軍航空隊			八丈島警備隊			父島方面根拠隊			佐伯海軍航空隊			天津海軍航空隊			山陰海軍航空隊				
佐伯航空基地	大村航空基地	諫早航空基地	富高航空基地	出水航空基地	人吉航空基地	第一國分航空基地	第二國分航空基地	鹿兒島航空基地	岩川航空基地	鹿屋航空基地	笠ノ原航空基地	申良航空基地	宮崎航空基地	喜界島航空基地	南大東島航空基地	種ヶ島航空基地	佐世保航空基地	指宿航空基地	
西海軍航空隊			九州海軍航空隊																
第九五一海軍航空隊																			
第五航空艦隊																			
錦鶴航空基地	津洲島航空基地	鎮海航空基地	旅順航空基地	南西諸島陸上航空基地	南西諸島水上航空基地	釜山航空基地	光州航空基地	第九〇一海軍航空隊											迎日航空基地
南西諸島海軍航空隊							北海軍航空隊											朝鮮海軍航空隊	
北海軍航空隊							南海軍航空隊												

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令第六六九號  
潜水隊編制中左ノ通改定セラル  
昭和二十年七月二十四日  
海軍大臣  
第一潜水隊ノ項中「伊號第四百二」ノ下ニ「伊號第四百二」ヲ加フ  
(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第六七〇號  
横須賀鎮守府豫備掃海艇  
第二百二號掃海艇  
右警備掃海艇ト定メラル

<p>昭和二十七年七月二十五日 海軍大臣 内令第六七一號 昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ヲ定ムルノ件中左ノ通改正ス 昭和二十年七月二十五日</p>	<p>海軍大臣 第百十海軍航空廠マカツサル分工場、第百十海軍航空廠ケンダリ一分工場、第百十海軍航空廠カニコバル分工場及第百十海軍航空廠コタラヂヤ分工場ノ各項及 第百四海軍建設部 トアール支部 トアールヲ削ル (内令提要卷二、三八ノ五四ノ二頁参照)</p>	<p>内令第六七二號 昭和十三年内令第三四一號地方在勤海軍武官ノ在勤地ニ關スル件中左ノ通改正ス 昭和二十年七月二十五日 海軍大臣 臨時地方在勤海軍武官ノ在勤地名ノ部中「清津、」ノ下ニ「羅津、」ヲ加フ (内令提要卷六、一八ノ六頁参照)</p>
<p>内令第六七三號 海軍特別根據地隊ノ所管、名稱及所在地ノ件中左ノ通改正セラル 昭和二十年七月二十五日 海軍大臣</p>	<p>佐世保鎮守府 羅津方面特別根據地隊 羅津 佐世保鎮守府 元山方面特別根據地隊 元山 ニ改ム (内令提要卷一、三八ノ五頁参照)</p>	<p>内令第六七四號 特設通信隊同分遣隊所在地、種別等ノ件中左ノ通改正セラル 昭和二十年七月二十五日 海軍大臣 佐世保鎮守府 羅津通信隊 羅津 佐世保鎮守府 元山通信隊 元山 ニ改ム (内令提要卷一、六四ノ二頁参照)</p>
<p>○ 鐵 線 軍需機密需第一六八號 昭和二十年七月三十一日 海軍省軍需局</p>		

秘海軍公報 第五〇八九號 昭和二十年八月四日

八五三

關係各廳(艦船部隊ヲ除ク)御中

艦營需品、燃料取扱規配付ニ關スル件照會

首題物品ニ關スル挿換紙(第四回改正)不日出報ノ遲ト相成候處之方要望ノ向ハ所要數ヲ當局第一部宛通知相成度

軍需機密第一六九號

昭和二十年八月一日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

艦營需品並ニ港用品ノ消費規正ニ關スル件申進

今般官房經第四四二號ヲ以テ首題物品ノ出納ニ關シ他ノ兵備品ト同様戰時特令ヲ適用セララルコトナリタル處之方趣旨ハ作戰部隊等ノ事務ヲ簡素化スルニアルヲ以テ本特令實施後ニ於ケル取扱ニ關シ亂雜放漫ニ陥リ濫費ノ弊ニ流レザル様海軍兵備品會計規程、艦營需品經理規程及港用品經理規程ノ趣旨ヲ體シ萬遺憾ナカランシムル様取計相成度

經賜第一〇號ノ一一

昭和二十年七月二十七日

海軍省經理局長

各廳長殿

行賞賜金國庫債券及特別賜金公債ノ再交付手續ニ關スル件通牒

行賞賜金又ハ特別賜金トシテ交付セラレタル國債證券ニシテ喪失シタル場合ノ再交付手續ニ關シテハ左記ニ依ルゴトト了知相成度

失シタル場合ノ再交付手續ニ關シテハ左記ニ依ルゴトト了知相成度

記

一 行賞賜金

(イ) 支那事變行賞賜金

(一) 各廳勤務者ニ對スル支那事變行賞賜金國庫債券(記名登錄證券)ニシテ受給者へ交付前不可抗力ニ因ル事故(闕行爲ヲ含ム)ノ爲喪失シタルトキハ廳長ハ別紙第一ニ依ル支那事變行賞賜金國庫債券再交付願ヲ海軍省經理局賜金國庫債券取扱官吏(以下經理局取扱官吏ト稱ス)宛送付スルモノトス

(二) 經理局取扱官吏前號ニ依ル再交付願ヲ受ケタルトキハ査定ノ上事情已ムヲ得ザルモノト認メタルモノニ對シ大藏省宛之方再發行ノ手續ヲ爲シ當該證券ハ受給者ノ留守家族宛直接交付シ其ノ旨廳長ニ通知スルモノトス

(三) 賜金受給者ニ於テ當該證券受領後喪失セル場合海軍ヨリ再交付ハ行ハズ受給者ハ別紙第二ニ依ル賜金國庫債券交付證明書下附願ヲ直接經理局取扱官吏宛提出シ同取扱官吏ヨリ別紙第四ニ依ル支那事變賜金國庫債券交付證明書ノ發給ヲ受ケ直接日本銀行本店、支店又ハ代理店ニ當該證明書ヲ提示ノ上再交付方請求手續ヲシテ再交付ヲ受タルモノトス

(ロ) 大東亞戰爭行賞賜金



大東亞戰爭行賞賜金國庫債券（無記名、無登錄證券）ノ喪失ニ付テハ海軍トシテノ再交付ハ一切取扱ハズ但シ戰時喪失ニ因リ喪失シタル場合ハ昭和十九年法律第十七號戰時喪失無記名證券臨時措置法及大藏省令第五十三號戰時喪失無記名國債證券規則ニ依リ賜金受給者ヨリ直接日本銀行本店、支店又ハ代理店ニ手續ノ上之ガ再交付ヲ受クルモノトス

前項ノ再交付手續ノ際ニ要スル大東亞戰爭賜金國庫債券交付證明書（別紙第五）ハ（イ）三號ニ準ジ受給者ヨリノ下附願ヲ俟テ經理局取扱官吏又ハ經理部取扱官吏（各經理部交付ニ係ルモノニ付テハ當該經理部取扱官吏）ヨリ夫々發給スルモノトス

二 特別賜金

特別賜金公債（無記名、無登錄證券）ノ喪失ニ付テハ（ロ）號ニ準ジ處理スルモノトス但シ賜金受給者ヨリノ特別賜金公債交付證明書下附願ハ別紙第三ニヨリ海軍省經理局特別賜金公債取扱官吏又ハ海軍經理部特別賜金公債取扱官吏宛提出シ各取扱官吏ハ別紙第六ニ依ル特別賜金公債交付證明書ヲ發給スルモノトス

追テ昭和十七年六月經費第二〇〇號ノ九及昭和十八年九月經費第二〇〇號ノ一二ニ依ル各照會ハ自然消滅ノ義ト了知相成

秘海軍公報 第五〇八九號 昭和二十年八月四日

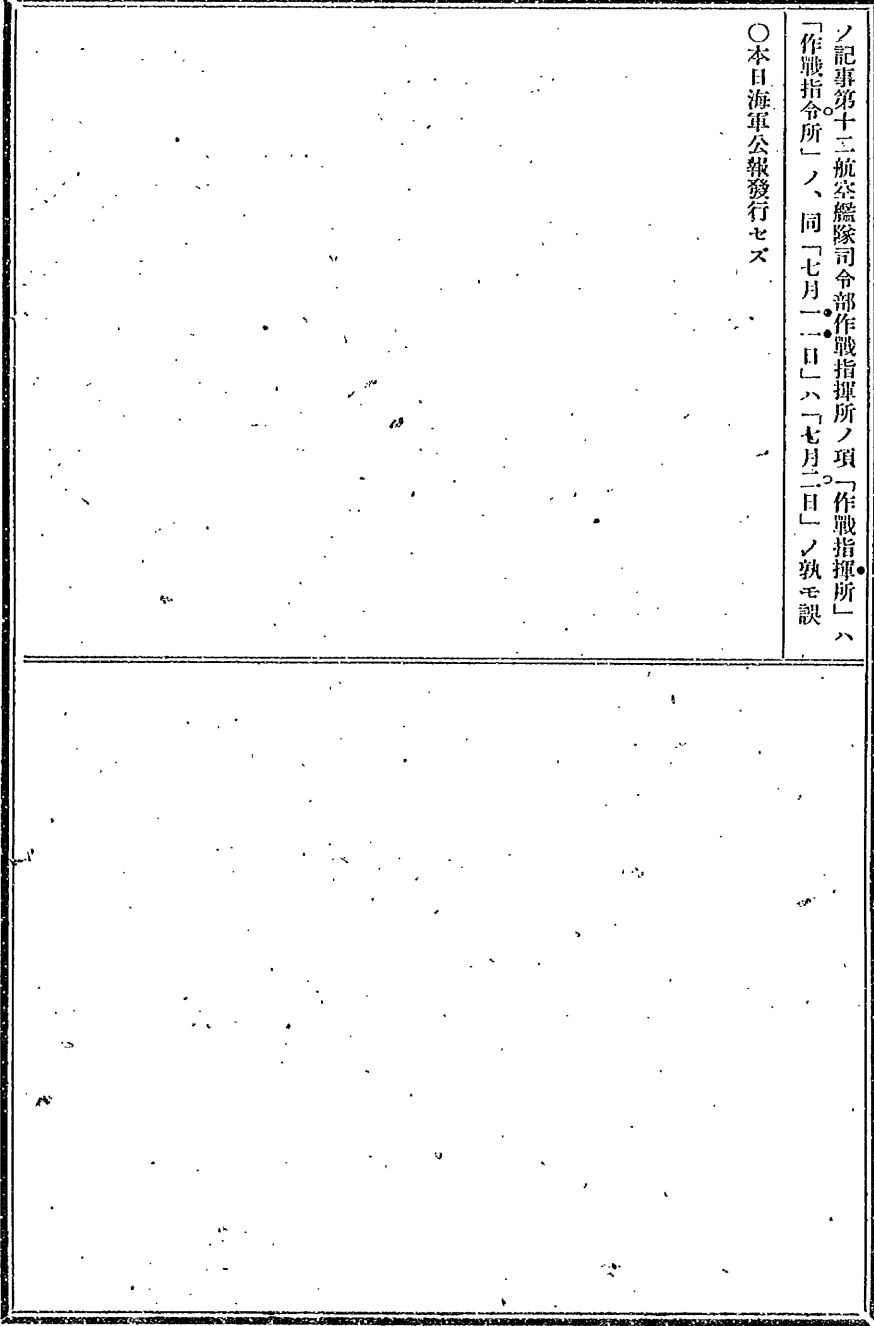
度		○難 款		○事務開始	
事務所名	設置場所	事務開始日	記 事	事務所名	設置場所
吳海軍運輸部高松支部	香川縣高松市五番丁立高松高等女學校内	六月二五日	旅行順路 宇高連絡船經由來高ノ場 合高松橋下船 四國内ヨリ來高ノ場合 松國内ヨリ來高ノ場合 五番丁下車（兩隣ヨリ市電）	大阪警備隊西ノ宮市官派遺隊	兵庫縣西ノ宮市上ノ原（舊西ノ宮海軍航空隊内）
對馬警備隊（海軍藤田部隊）	長崎縣下縣郡對知村竹敷	七月七日	旅行順路 七月七日上記ノ場所ニ進駐 鹿兒島本線博多驛下車 博多知原間連絡船便一嚴 原知竹間乘合自動車便一嚴 郵便發先送徒歩 福物發先送徒歩 海軍藤田部隊 郵便發先送徒歩	第七陸上輸送隊	橫須賀市田浦軍需部内
○正誤	七月二十一日附秘海軍公報第五〇七號雜款欄中應令、部隊移轉	七月二五日	郵便發先送徒歩 橫須賀局氣付 ウ七七七		

八五五

秘海軍公報、第五〇八九號 昭和二十年八月四日

八五六

ノ記事第十三航空艦隊司令部作戰指揮所ノ項「作戰指揮所」ハ  
「作戰指令所」ノ、同「七月二日」ハ「七月二日」ノ孰モ誤  
○本日海軍公報發行セズ



(經賜第一〇號ノ一一別紙第一)

昭和 年 月 日

海軍省經理局賜金國庫債券取扱官吏殿

支那事變行賞賜金國庫債券再交付願

廳

長 官

(昭和二十年八月四日秘海軍公報)

左記ノ者ニ對スル支那事變行賞賜金國庫債券、何々(喪失ノ事由、根據等詳記ノコト)ニ依リ喪失致候條再交付相成度

記

發 表 回 數	發 表 番 號	賜 金 額	國 債 内 譯		官 等 氏 名	電 報 符 又 ハ 兵 籍 番 號
			券 面 種 別	枚 數 債 券 番 號		

備 考

- 一 別紙ニ受給者ノ留守家族現住所續柄氏名ヲ記載ノ上添付ノコト
- 二 遞送中ノ事故ニ依ルモノハ願末書及關係證明書等添付ノコト
- 三 官等ハ發表當時ノモノヲ記入ノコト
- 四 發表番號ハ御沙汰書又ハ辭令書裏面ニ記載シアリ

1146

(經賜第一〇號ノ二別紙第二)

昭和 年 月 日

受給者 氏

名 園

(昭和二十年八月四日海軍公報)

海軍省經理局  
又ハ海軍經理部  
賜金國庫債券取扱官吏殿

賜金國庫債券交付證明書下附願

左記ノ者ニ對スル賜金國庫債券交付證明書交付方御取計相成度

記

國債ノ種別 ( )

回数表	發表番號	賜金額	國債内譯		官等氏名	借符又ハ兵籍番號
			券面種別	枚數		

備考

- 一 國債ノ種別欄ハ支那事變行賞賜金國債又ハ大東亞戰行賞賜金國債ノ別ヲ記載スルモノトス
- 二 發表番號ハ御沙汰書又ハ辭令書裏面ニ記載シアリ
- 三 官等ハ發表當時ノモノヲ記入ノコト

(經賜第一〇號ノ一二別紙第三)

昭和 年 月 日

(昭和二十年八月四日祕海軍公報)

請求者 氏

名 國

海軍省經理局 特別賜金公債取扱官吏殿  
又ハ海軍經理部

特別賜金公債交付證明書下附願

左記ノ者ニ對スル特別賜金公債交付證明書交付方御取計相成度

記

賜金給與 發令年月日	賜金額	國債 券面種別 枚數	債内譯 債券番號	官等 氏名	受給者 氏名

備考

官等ハ發令當時ノモノヲ記入ノコト

(經賜第一〇號ノ一別紙第四)

支那事變國庫債券交付證明書

國債ノ名稱及記號

大日本帝國政府支那事變行賞賜金國庫債券イ號

(昭和二十年八月四日海軍公報)

記名者	發表回數	發表番號	賜金額	國債内譯		附屬利札枚數	支拂期子
				券面種別	債券番號		
							毎年四月一日渡

右國債ハ昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

宛交付セシコトヲ證明ス

海軍省經理局賜金國庫債券取扱官吏 圖

(經賜第二〇號ノ二別紙第五)

大東亞戰爭賜金國庫債券交付證明書

(昭和二十年八月四日海軍公報)

國債ノ名稱及記號 大日本帝國政府大東亞戰爭行賞賜金國庫債券は號

發 表 番 號	發 表 番 號	賜 金 額	無記名國債内譯		附 屬 利 札 枚 數	利 子 支 拂 期
			券 面 種 別	枚 數		
回 數						每 年 四 月 一 日 渡

右國債ハ昭和 年 月 日

宛交付セシコトヲ證明ス

海軍省經理局 又ハ海軍經理部 賜金國庫債券取扱官吏 印

(經賜第二〇號ノ一別紙第六)

特別賜金公債交付證明書

(昭和二十年八月四日秘海軍公報)

國債ノ名稱及記號

大日本帝國政府三分半利公債證書

號(但シ特別賜金ト表示シアルモノ)

賜金給與 發令年月日	額面金額	國債内譯		附屬利札枚數	利子支拂期
		券面種別	枚數		
					每年六月一日及十二月一日渡

右國債ハ昭和 年 月 日特別賜金トシテ

昭和 年 月 日

宛交付セシコトヲ證明ス

海軍省經理局  
又ハ海軍經理部  
特別賜金公債取扱官吏 印



秘

海軍公報 第五〇九〇號

昭和二十年八月五日(日) 海軍大臣官房

令 達

官房人機密第四八七號  
本年七月二十五日現在左記上欄各隊ノ職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ  
昭和二十年七月二十五日  
海軍大臣

記

羅津方面特別根據地隊	元山方面特別根據地隊
羅津通信隊	元山通信隊

通 牒

海人二第一〇四號  
昭和二十年七月六日

海軍省人事局  
海軍省經理局

關係各廳御中  
海軍軍屬タル船員ニ對スル死歿者特別賜金與規程等ノ適用區分ニ關スル件通知  
應徵船員一時金支給規則及應徵船員死傷病手当支給規則ノ施行ニ伴ヒ以後海軍軍屬タル船員(海軍徵備船以外ノ船舶乘組員

秘海軍公報 第五〇九〇號 昭和二十年八月五日

タル海軍軍屬ヲ除ク)ニ對シテハ死歿者特別賜金賜與規程、員扶助令及傭人扶助令ハ適用ナキコト相成リタル處之ガ切換期前後ニ於ケル適用區分ニ關シ關係廳(海、陸軍省、郵船通信省及船船運警會)間ニ左記ノ通申合セラレ候ニ付了知相成度追テ昭和二十年一月二十五日以後ノ退職(死亡)者ニ對シテハ海軍退職賞與内規モ適用ナキニ付爲念

記

一 昭和二十年一月二十四日以前ニ死亡シタル陸海軍軍屬タル船員(陸海軍徵備船以外ノ乘組員タル海軍軍屬ヲ除ク以下同ジ)ニ對シテハ死歿者特別賜金賜與規程ニ依リ陸海軍ヨリ特別賜金ヲ賜與スルモノトス昭和二十年一月二十四日以前ニ發生シタル原因ニ因リ昭和二十年一月二十五日以後ニ死亡シタル者ニ對シ亦同ジ  
二 昭和二十年一月二十五日以後死亡(昭和二十年一月二十四日以前ニ發生シタル原因ニ因ル場合ヲ除ク)シタル陸海軍軍屬タル配屬船員(運輸通信省ヨリ陸海軍各部隊ニ配屬セラレタル待遇官吏タル船員ヲ謂フ以下同ジ)及應徵船員陸海軍徵備船員ニ配置セラレタル應徵船員ヲ謂フ以下同ジ)ニ對シテハ應徵船員一時金支給規則ニ依リ運輸通信省ヨリ死亡一時金ヲ支給スルモノトシ死歿者特別賜金ノ賜與ハ之ヲ爲サザルモノトス障害一時金ハ昭和二十年一月二十五日以後傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル配屬ノ船員及應徵船員ニ支給スルモノト

八五七

ス  
三 昭和二十年一月二十四日以前ニ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル陸海軍軍屬タル船員ニ對シテハ雇員扶助令又ハ傭人扶助令ニ依リ陸海軍ヨリ扶助金ノ支給ヲ爲スモノトス  
昭和二十年一月二十四日以前ニ發生シタル原因ニ因リ昭和二十年一月二十五日以後ニ死亡シタル者ニ對シ亦同シ  
四 昭和二十年一月二十五日以後傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡(昭和二十年一月二十四日以前ニ發生シタル原因ニ因リ場合ヲ除ク)シタル陸海軍軍屬タル配屬船員及應徵船員ニ對シテハ應徵船員死傷病手当支給規則ニ依リ死傷病手当ヲ支給スルモノトス

○感 狀

感 狀 第六航空軍 美 烈 空 挺 隊 第三獨立飛行隊  
右ハ昭和二十年五月二十四日夜決死沖繩敵北中飛行場強行着陸ヲ敢行シ所在敵機並ニ敵兵ヲ殲滅シ克ク二十數時間ニ亘リ敵飛行場ヲ制壓シ翌二十五日午前我特攻隊ハ沖繩周邊敵艦船ニ對シテ大舉攻撃ヲ成功セシメ赫々タル大戦果ヲ收メタリ  
之全ク右挺進攻撃隊機體挺身ノ精華ニシテ忠烈燦トシテ萬世ニ輝キ眞ニ皇軍ノ鑑タリ  
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス  
昭和二十年五月二十六日  
海軍總司令長官 豊田 副武

○款 雜

事務所名	設 置 場 所	事務開始日	記 事
佐世保海軍設營	長崎縣東彼杵郡江上村	六月二十五日	郵便物發送先 香川縣三豐郡觀音寺町觀音寺郵便局(具付 櫻部隊)
第五千一百十二設營	野原村大野原國民學校內	六月二十日	旅行順路 元山驛下車陸路北(約四)
第三百五十四設營	朝鮮咸鏡南道元山(元山海軍航空隊內)	六月十四日	郵便物發送先 朝鮮咸鏡南道元山郵便局(具付ウ六一九)
第五千十八設營	廣濱市戸塚區中田町(廣濱海軍航空隊內)	七月一日	旅行順路 廣濱市戸塚區下車徒歩約五十分 郵便物發送先 廣濱市郵便局(具付廣濱海軍航空隊內ウ七四七)
第三千二百十七設營	佐世保海軍設營部內	七月五日	
第三千一百十七設營	吳市廣町大字廣路諸富部隊	七月二十日	

○本日軍機秘海軍公報第一七四號(乙配付)發行セリ  
配付先  
關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、大浦突擊隊、吳海軍工廠、關係各學校



# 海軍公報

第五〇九一號

昭和二十年八月六日(月)  
海軍大臣官房

## ○令 達

達第一七六號  
昭和二十年八月五日  
昭和三十二年八月五日  
ノ通命名ス

海軍大臣

- 佐世保海軍工廠ニ於テ建造  
波號第二百三十潛水艦
- 波號第二百三十一潛水艦
- 波號第二百三十二潛水艦
- 株式會社船矢造船鐵工所ニ於テ建造  
第一百一號海防艇
- 株式會社強力造船所ニ於テ建造  
第二百二十五號海防艇
- 第二百二十六號海防艇
- 株式會社西井造船所ニ於テ建造  
第二百二十八號海防艇
- 株式會社四國船渠工業所ニ於テ建造  
第三百三十二號海防艇
- 第三百三十三號海防艇

秘海軍公報 第五〇九一號 昭和二十年八月六日

有限會社福島造船鐵工所ニ於テ建造

第四百一十一號海防艇

株式會社自念造船鐵工所ニ於テ建造

第四百十八號海防艇

株式會社佐賀造船鐵工所ニ於テ建造

第四百五十七號海防艇

內令第六九一號

鎮守府警備區ノ特例ニ關スル件ハ之ヲ廢止セラル

昭和二十年八月二日

海軍大臣

內令第六九二號

海軍特別根據地隊令中左ノ通改正セラル

昭和二十年八月二日

海軍大臣

第四條第二項中「必要ニ應ジ」ノ下ニ「參謀長、」ヲ加フ

第十條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

參謀長ハ司令官ヲ佐ケ第二條第二項ニ規定スル涉外要務ニ關

スル事項ヲ整理シ參謀、副官共ノ他同項ノ涉外要務ニ參與ス

ル隊附ノ服務ヲ監督ス

八五九

同條第二項中「司令官」ノ下ニ「參謀長ヲ置キタル場合ニハ參謀長」ヲ、「第二條」ノ下ニ「第二項」ヲ加フ  
別表第一及第二各備考中第一號ヲ第二號トシ以下順次繰下ゲ第一號トシテ左ノ一號ヲ加フ  
一 本表ノ外必要ニ應ジ參謀長少將、大佐一人ヲ置ク  
(内令提要卷一、三七頁參照)

内令兵第三六號

昭和十一年内令兵第四五號中左ノ通改正ス

昭和二十年八月四日

海軍大臣 臣

(二) 呼稱番號區分中

人吉海軍航空隊 ヒト

第二田水海軍航空隊	シイツ	福岡海軍航空隊	フク
串良海軍航空隊	クシラ	鹿兒島海軍航空隊	カコ

及

ヲ削ル

(參照) (前記内令兵ハ航空機番號付與法及其ノ表示方ノ件ナリ)  
(内令提要卷三、二二六頁參照)

内令兵第三七號

昭和十一年内令兵第四五號中左ノ通改正ス

昭和二十年八月四日

海軍大臣 臣

第一號イノ部(中)「番號ハ本表ノ範圍内ニ於テ廳長適宜之ヲ定メ其ノ都度製造番號ト對照セルモノヲ海軍航空本部長ニ通報スルモノトス」ヲ「番號ハ本表ノ範圍内ニ於テ廳長適宜之ヲ定ム」ニ改ム  
(參照) (前記内令兵ハ航空機番號付與法及其ノ表示方ノ件ナリ)  
(内令提要卷三、二二六頁)

官房軍第三七二號

昭和二十年官房軍第二〇二號、同第二二一號及同第二五八號ハ之ヲ廢止ス  
昭和二十年七月三十一日

海軍大臣 臣

(參照) 昭和二十年官房軍第二〇二號ハ館山海軍砲術學校ノ施設ハ橫須賀海軍砲術學校ノ施設ニ準ジ使用ノ件ナリ  
同年官房軍第二二一號ハ橫須賀海軍砲術學校ノ分校ノ部内限呼稱ノ件ナリ  
(參照) 同年官房軍第二五八號ハ橫須賀海軍砲術學校長ハ同校ノ分校ニ配屬ノ首席兵科將校ヲシテ所轄長ニ準ジ當該分校ニ在任スル者ノ身上ヲ取扱ハシムルコトヲ得ルノ件ナリ

官房需第一一〇號

昭和十八年官房需第二〇九號中左ノ通改正ス

昭和二十年八月四日

海軍大臣 臣

別表第二備考第二號中「コトヲ得ズ」ノ下ニ「又特ニ事情アル



1156 1156

期日及時刻	合同海軍葬儀執行	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
八月四日一〇三〇		故海軍兵曹長神村宗治外諸勇士	前橋地方海軍人部長	前橋地方海軍人事部	佛式
八月四日一〇〇〇		故海軍兵曹長熊谷五郎外諸勇士	秋田地方海軍人部長	秋田市記念會館	同
八月五日一三〇〇		故海軍少佐大井幸司外諸勇士	静岡地方海軍人部長	静岡市臨濟寺	同
八月六日一〇三〇		故海軍大尉藤野齊助外諸勇士	盛岡地方海軍人部長	盛岡市公會堂	同
八月六日一〇三〇		故海軍中將澁谷紫郎外諸勇士	長野地方海軍人部長	長野市大勸進	同
八月九日一〇二〇		故海軍兵曹長高津戸雅夫外諸勇士	宇都宮地方海軍人部長	宇都宮市教育會館	同
八月十七日一〇三〇		故海軍中尉長谷川邦茂外諸勇士	福島地方海軍人部長	福島市公會堂	同
八月十七日一〇〇〇		故海軍中將緒方眞紀外諸勇士	横須賀海軍人部長	横須賀市海軍靈安所	同
八月二十日一〇〇〇		故海軍少佐竹内廉二外諸勇士	大湊海軍人部長	青森縣東津輕郡野内村淺瀧夢七寺	同

○本日軍機秘海軍公報第一七五號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ



<p>近畿海軍航空隊 奈良縣山邊郡朝 和村大和航空基 地内</p>	<p>七月三日</p>	<p>○轉勤者赴任先 當分ノ間本艦ヘノ轉勤者ハ廣島縣安藝郡大屋村（吳線天應驛下 車）ニ向ケ赴任セシメラレ度 （軍艦 磐 一 手）</p>
<p>○訂正 六月十七日附秘海軍公報第五〇四四號令達欄内令第五〇六號下 段三行目第八十五號ノ下「横」ヲ「大」ニ改メ末尾ニ</p>		

○本日海軍公報發行セズ

○本日軍極秘海軍公報第一七六號（乙配付）發行セリ

配付先  
各航空隊、各航空基地、各航空廠、同支廠、第一、第二各  
海軍技術廠、同支廠、各海軍監督官事務所、同出張所

「大湊防備隊ノ項限潛特務艇ノ欄」第百八十五號（大）「ヲ削ル」  
ヲ追加ス





# 海軍公報

第五〇九三號



海軍大臣官房

昭和二十年八月八日(水)

### ○令 達

内令第六七五號

昭和十八年内令第一八三三號及同第二五六六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年七月二十五日

海軍大臣 臣

〔羅津方面特別根據地隊〕ヲ二元山方面特別根據地隊ニ改ム

(内令提要卷三、四八ノ一九頁及二九頁参照)

内令第六七六號

右本籍ヲ佐世保領守府ト定メラル

昭和二十年七月二十七日

海軍大臣 臣

波號第二百二十九潜水艦

内令第六七七號

右本籍ヲ佐世保領守府ト定ム

昭和二十年七月二十七日

海軍大臣 臣

第百九十二號哨戒特務艇

内令第六七八號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年七月二十七日

海軍大臣 臣

元山方面特別根據地隊ノ項哨戒特務艇ノ欄第百六十六號(佐)ノ次ニ「第百九十二號(佐)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第六七九號

右本籍ヲ吳領守府ト定ム

昭和二十年七月二十九日

海軍大臣 臣

第三十一號哨戒特務艇

内令第六八〇號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年七月二十九日

海軍大臣 臣

神戸港灣警備隊ノ項哨戒特務艇ノ欄「第三十七號(吳)」ノ前ニ「第三十一號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

秘海軍公報 第五〇九三號 昭和二十年八月八日

八六五

秘海軍公報 第五〇九三號 昭和二十年八月八日

八六六

内令第六八一號  
 横須賀鎮守府在籍  
 敷設艇 神 島  
 右警備敷設艇ト定メラル  
 昭和二十年七月三十日  
 海軍大臣

○雜 談

○廳舎、部隊移轉

第五千九十九設營隊	静岡縣小笠那日坂村日坂國民學校内	七月三日	旅行船路 横須賀線衣笠驛下車徒歩約十分
第五百七十二設營隊 (佐々木部隊)	青森縣下北郡大畑町字孫次郎間	七月七日	郵便物發送先記ノ場所ニ進駐 ウ六貳八
第五百七十二設營隊 (佐々木部隊)	同	七月三日	郵便物發送先記ノ場所ニ進駐 ウ六貳八
鎮海海軍運輸部 釜山支部	釜山府大廳町二丁目二番地東拓ビル	六月八日	
釜山在勤海軍武官府	同	七月三日	
横須賀鎮守府第十五特別陸隊	横須賀市公郷町神奈川縣立横須賀中學校内	七月三日	郵便物發送先(8)二〇五番 久里濱交換 電話十分 電報 郵便物發送先(海軍軍用部隊)

横須賀聯合特別陸隊司令部	横須賀市金谷町十一番地(光心寺側)	七月六日	最寄下車驛 郵便物發送先 横須賀局氣付 ウ七貳七
--------------	-------------------	------	-----------------------------------

○事務所撤去

事務所名	撤去日	記	事
第三海軍火藥廠長濱工場	七月五日		
第二百二號海防艦裝具事務所	七月七日		
第二十二號輸送艦裝具事務所	七月五日		

○正誤

昭和二十年八月二日秘海軍公報八四三頁上段末行中「第九條第四號ヲ」ハ「第九條中第四號ヲ削リ第五號ヲ」ノ誤

秘

# 海軍公報

第五〇九四號

海軍大臣官房

昭和二十年八月九日(木)

○令 達

内令第六七八號ノ二  
艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年七月二十七日

海軍大臣

潜水艦、二等波二百一型ノ項中「波號第二百二十七」ノ下ニ  
「波號第二百二十九」ヲ加フ

(内令提要卷三、三九頁参照)

内令第六八二號

昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年七月三十日

海軍大臣

第二十七魚雷艇隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二七頁参照)

内令第六八三號

- 第四百九十七號魚雷艇
- 第四百九十九號魚雷艇
- 第八百二號魚雷艇

内令第六八六號  
特設掃海隊編制中左ノ通改定セラル

内令第六八四號(軍機秘海軍公報第一七七號(乙配付)ニ掲載)  
第六八五號

右本籍ヲ佐世保鎮守府卜定メタル處之ヲ解ク

海軍大臣

- 第八百九號魚雷艇
- 第八百一十一號魚雷艇
- 自第八百十五號魚雷艇
- 至第八百十八號魚雷艇
- 第八百二十一號魚雷艇
- 第八百二十二號魚雷艇
- 第八百二十六號魚雷艇
- 第八百三十五號魚雷艇
- 第八百四十一號魚雷艇
- 自第八百四十四號魚雷艇
- 至第八百四十六號魚雷艇
- 第八百五十一號魚雷艇
- 第八百五十二號魚雷艇

1161

秘海軍公報 第五〇九四號 昭和二十年八月九日

八六七

昭和二十年七月三十一日

海軍大臣

第二十六掃海隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、一五〇頁参照)

官房艦機密第二〇四七號

大東亞戰爭中鎮守府、警備府又ハ艦隊司令長官ハ新設砲臺ノ試射又ハ特ニ必要アル場合訓練用トシテ兵器備品(魚雷、機雷、爆雷ヲ除ク)定數ノ $\frac{3}{100}$ 以内ヲ年度内ニ於テ使用セシムルコトヲ得但シ試射ハ砲一門ニ付一發、機銃ハ一挺ニ付五發以内トス

昭和二十年八月八日

海軍大臣

○雜 款

○名稱變更

當班從來舞鶴海軍施設部第一教導設營班ト稱シタルモ七月一日ヨリ第一教導設營班及第二教導設營班ヲ統合教導設營班トセラレタルニ付自今左ノ通改稱ス  
追テ所在地ハ從前通(舞鶴市西舞鶴公文名)ニ有之候  
舞鶴海軍施設部教導設營班  
通稱 海軍益田部隊  
(舞鶴海軍施設部教導設營班)

○訂正

七月七日附秘海軍公報雜款欄轉動者赴任先ノ項中「偵察第三〇一海軍航空隊、偵察第三〇二海軍航空隊」ヲ「偵察第三〇一飛行隊、偵察第三〇二飛行隊」ニ訂正ス

○正誤

八月三日附秘海軍公報令達欄官房艦機密第四四三號別表ノ項中「準備贈入材料」ハ「準備購入材料」ノ誤

○本日軍極秘海軍公報第一七七號(乙配付)發行セリ

配付先  
各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、同支廠

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第五〇九五號

○令 達

内令第六九三號

昭和九年内令第四一六號別冊艦艇、特務艦艇機關使用限度標準  
表中別表ノ通改正ス

別表ハ海軍省軍務局長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム  
昭和二十年八月一日  
海軍大臣

内令第六九四號

海軍部隊練習生教育規程中左ノ通改正ス

昭和二十年八月一日  
海軍大臣

第二條表中末尾ニ左ヲ加フ

特攻戰隊 第二 高等科水雷術練習生(魚雷)

(参照) (内令提要卷二、五〇八ノ二頁)  
(内令第一四一七號)

内令第六九五號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年八月一日  
海軍大臣

秘海軍公報 第五〇九五號 昭和二十年八月十日

昭和二十年八月十日(金)

海軍大臣官房

第十六潜水隊ノ項中「伊號第三百七十二」ヲ削ル

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第六九六號

掃海隊編制ハ之ヲ廢止セラル

昭和二十年八月一日  
海軍大臣

(内令提要卷一、七五頁参照)

内令第六九七號

横須賀鎮守府湖基兼警備艦

軍艦 駒 橋

佐世保鎮守府警備海防艦

海防艦 笠 戸

右役務ヲ解カル

横須賀鎮守府豫備艦

軍艦 駒 橋

右第四豫備艦ト定ム

佐世保鎮守府豫備海防艦

海防艦 笠 戸

右特殊警備海防艦ト定ム

八六九

昭和二十年八月一日

海軍大臣

内令第六九八號

佐世保鎮守府在籍

伊號第三百七十二潜水艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府ニ改定セラル

横須賀鎮守府在籍

伊號第三百七十二潜水艦

右第四豫備潜水艦卜定ム

昭和二十年八月一日

海軍大臣

内令第六九九號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年八月一日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「文丸(横)、第二關丸(横)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第七〇〇號

汽船 文丸

同 第二關丸

右特設驅潛艇トシ横須賀鎮守府所管卜定メタル處之ヲ解ク

昭和二十年八月一日

海軍大臣

○雜 款

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	記 事
第二十三航空隊司令部	第十三航空隊司令部内	五月二日	
第二十四聯合航空隊司令部	奈良海軍航空隊内	七月二五日	七月二十五日解隊
福岡海軍航空隊	福岡縣糸島郡周船寺村相浦海兵團福岡分團内	七月二〇日	解隊ニ伴ヒ舊福岡海軍航空隊ハ一括相浦海兵團福岡分團ニ移管セシ同分團ニ配付先變更ノコト
第一岡崎海軍航空隊	愛知縣碧海郡矢作町第二陸上輸送隊内	八月一日	七月三十一日解隊 郵便物發送先 愛知縣碧海郡矢作局氣付
第二岡崎海軍航空隊	愛知縣碧海郡上郷村第二岡崎海軍航空隊内	同	七月三十一日解隊 愛知縣碧海郡上郷局氣付

○本日軍機秘海軍公報第一七八號(乙配付)發行セリ  
配付先

關係各司司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、  
吳海軍工廠、大浦突擊隊、關係各學校

○本日海軍公報發行セズ



# 海軍公報

第五〇九六號

昭和二十年八月十一日(土)  
海軍大臣官房

## ○令 達

達第一六三號ノ二

昭和二十年七月十八日  
佐世保海軍工廠ニ於テ建造ニ着手ノ潜水艦一隻ニ左ノ通命名ス

海軍大臣

波號第二百二十八潜水艦

内令第五〇四號ノ二

右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

昭和二十年六月三日

第三十七號哨戒特務艇

海軍大臣

内令第五〇四號ノ三

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年六月二日

海軍大臣

高雄海軍警備隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

神戸港海軍警備隊  
第五十七號(吳)

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第六二八號ノ二

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

昭和二十年七月十四日

第七十四號輸送艦

海軍大臣

内令第六二八號ノ三

輸送隊編制中左ノ通改正セララル

昭和二十年七月十四日

海軍大臣

第三十一輸送隊ノ項中「第七十三號」ノ下ニ「第七十四號」ヲ加フ  
(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第六六八號

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

昭和二十年七月二十三日

第六十六號哨戒特務艇

海軍大臣

内令第六六八號ノ二

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年七月二十三日

秘海軍公報 第五〇九六號 昭和二十年八月十一日

八七一

秘海軍公報 第五〇九六號 昭和二十年八月十一日

第二遣支艦隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
海軍大臣

羅津方面 特別根據地隊	第百六號係
----------------	-------

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第六七五號ノ二  
左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和二十年七月二十五日

海軍大臣

汽船	船名	特設艦船種別	所管
第四日立丸		特設運送艦	吳鎮守府

内令第七〇一號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年七月三十一日

海軍大臣

伊勢防備隊ノ項特設掃海艇ノ欄ニ「第一京仁丸(横)、第二京仁丸(横)、第十八播州丸(横)、第十昭和丸(横)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

官房軍機密第七三四號

昭和二十年官房軍機密第二四四號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年八月九日

海軍省軍需局ノ項末尾ニ左ノ如ク加フ  
海軍大臣

水兵曹(特修兵適)	八〇	特設海軍燃料廠補給部神戸駐在所ニ充ツベキモノ
水兵曹(特修兵適)	六〇	特設海軍燃料廠補給部相模野駐在所ニ充ツベキモノ
主計兵曹(掌理兵)	二	吳鎮守府
主計兵曹(掌理兵)	一	舞鶴鎮守府
水兵曹(特修兵適)	四四	特設海軍燃料廠補給部相模野出張所ニ充ツベキモノ
機關兵曹(特修兵適)	三三	
主計兵曹(掌理兵)	二	
主計兵曹(掌理兵)	一	

軍令部ノ部中臨時戦史部ニ充ツベキモノノ項ヲ左ノ如ク改ム

兵曹(特修兵適)	二	横須賀臨時戦史部ニ充ツベキモノ
機關兵曹(掌理兵)	一	横須賀臨時戦史部ニ充ツベキモノ
水兵曹(特修兵適)	七	横須賀臨時戦史部ニ充ツベキモノ
機關兵曹(掌理兵)	七	横須賀臨時戦史部ニ充ツベキモノ

官房軍機密第七三五號  
船舶應急處理委員會規約中左ノ通改正ス

昭和二十年八月十日

海軍大臣  
陸軍大臣  
運輸大臣



別表ヲ別表ノ如ク改ム

(別表添)

(内令提要卷一、三〇ノ六二頁参照)

官房軍機密第七三六號

昭和二十年官房軍機密第二四四號中左ノ通改正ス

昭和二十年八月十日

海軍大臣

別表軍需局ノ項中

下士官又ハ兵(特修兵) 四五	横須賀鎮守府	特設海軍燃料廠補給部 秋田出張所ニ充ツベキモノ
下士官又ハ兵(特修兵) 三五	舞鶴鎮守府	特設海軍燃料廠補給部 酒田・柏崎及大阪出張所ニ充ツベキモノ
下士官又ハ兵(特修兵) 四五	吳鎮守府	特設海軍燃料廠補給部 大阪出張所ニ充ツベキモノ
下士官又ハ兵(特修兵) 三五	横須賀鎮守府	特設海軍燃料廠補給部 秋田出張所ニ充ツベキモノ
下士官又ハ兵(特修兵) 四六	吳鎮守府	特設海軍燃料廠補給部 大阪及秋田出張所ニ充ツベキモノ
下士官又ハ兵(特修兵) 一	佐世保鎮守府	特設海軍燃料廠補給部 秋田出張所ニ充ツベキモノ
下士官又ハ兵(特修兵) 七二〇	舞鶴鎮守府	特設海軍燃料廠補給部 酒田及柏崎出張所ニ充ツベキモノ

改ム

秘海軍公報 第五〇九六號

昭和二十年八月十一日

(参照) (前記官房軍機密ハ下士官及兵派遣勤務ノ件ナリ)  
(昭和二十年三月十二日海軍公報)

通 牒

海人一第九號ノ三四

昭和二十年八月十日

海軍省人事局

部内各廳御中

新任技術科士官ノ電報符ニ關スル件申進  
昭和二十年三月一日採用海軍技術見習尉官(二年現役大學出身者) 中本年八月一日附海軍技術中尉ニ任用セラレタル者ノ電報符ハ秘海軍令公報甲第一八七四號任官辭令ニ記載ノ番號ヲ付與セラレタルモノトス  
追テ未任官者ニ對スル電報符左記ノ通付與セララル

- 林 和 男 (元七四四)
- 服 部 正 (元七四四)
- 戸 田 哲 夫 (元七四四)
- 川 邊 哲 夫 (元七四七)
- 長 尾 敏 一 (元七四八)
- 松 永 正 和 (元七四九)
- 森 逸 郎 (元七五〇)

經機密第三號ノ六〇  
昭和二十年八月十日

海軍省 經理局長

各支出官、資金前渡官吏殿

支拂指圖書信ニ關スル件通知

現在日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ支拂豫算ノ電報令示又ハ前渡資金等ノ電信送金ニ付テハ一般有線電信ヲ利用シ居候處戰局ノ推移ニ鑑ミ今後一般有線電信ハ益々輻輳ヲ豫想セラルルニ付荷クモ令示又ハ送金關係電信遲延ニ因リ經費授受ノ圓滑ヲ缺キ作戦上支障ヲ來スガ如キコト無キ様今回電報令示又ハ前渡資金等ノ電信送金ニシテ眞ニ止ムヲ得ザルモノニ在リテハ作戦上支障ナキ限リ海軍側ノ案内電報ト共ニ海軍ニ於テ打電ノコトニ日本銀行國庫局ト了済ニ有之候條所在日本銀行支店又ハ代理店ト連絡ノ上可然取計相成度

○ 雜 款

○ 廳舎、部隊移轉

廳舎、部隊名	移 轉 先	移轉月日	記 事
第五〇九設營隊	三重縣員辨郡員 校內	六月三日	六月二十三日上記ノ場所ニ進駐 郵便物發送先 辨分ノ間三重縣員辨郡員 辨局氣付 ウ六六六
第五千百十七設營隊	山口縣德山市加見村 校內	七月二〇日	旅行順路 山陽線富田驛下車徒歩約 一時間 郵便物發送先 山口縣德山市上野局氣付 第二橋部隊

吳海軍病院藥劑部  
廣島縣丹波郡府中市中町  
八月二日  
吳海軍病院內ニ於テモ供給  
旅行順路  
山陽線富田驛下車徒歩約  
二十分  
郵便物發送先  
山口縣德山市上野局氣付  
第二橋部隊

○本日海軍公報第一七九號(甲配付)發行セリ

(官房軍機密第七三五號別表)

委員長  
海軍次官

(備考)

副委員長陸海軍士官各一名、運輸省海運總局海務官一名ハ幹事ヲ兼ヌルモノトス

委員長	副委員長
陸軍省軍務局長 海軍省軍務局次長 運輸省海運總局海運局長 船舶救難本部長	陸軍省軍務課長 同 軍務局課員 海軍省軍務局第三課長 同 軍務局局員 海軍艦政本部部长 運輸省海運總局海務課長 同 海運總局海務官 海運總監部參謀 船舶救難本部長

(昭和二十年八月十一日秘海軍公報)



海軍公報號外(位勳)

○ 級 勳

昭和二十年六月三十日發令

敍勳二等授瑞寶章  
海軍少將 秋吉 利雄  
東郷 實

同 海軍大佐 山田 洋  
同 海軍中佐 下川 太  
同 海軍中佐 成田 篤逸  
同 海軍技師 山口 史郎  
同 海軍主計中佐 河村 直衛

敍勳三等授瑞寶章  
海軍技術少佐 高橋 正徳  
海軍主計大尉 佐藤 政行  
海軍技師 森 茂

敍勳四等授瑞寶章  
海軍技師 船岡 茂  
同 川畑 爲行  
同 落合 新作  
同 伊東 友彦  
同 河本 侯平  
同 多治見 一郎  
同 湊 壽一

(通各)

敍勳五等授瑞寶章  
海軍理事官 江頭 健  
同 阿部 末吉  
同 楠目 正康  
同 關谷 紀  
同 丸山 傳  
同 上西 玄作

同 海軍技師 向井 六郎  
同 山口 重三  
同 吉田 保雄  
同 金高 滿  
同 三須 時雄  
同 北川 梅二  
同 山浦 末三  
同 海軍教授 公文 公

敍勳六等授瑞寶章  
海軍技術少佐 田原 保二  
海軍理事官 二階堂 達人  
同 青木 善作  
同 青木 定一  
同 海軍教授 麓 香

敍勳七等授瑞寶章

昭和二十年八月二十日(月)  
海軍大臣官房

敍勳六等授瑞寶章  
海軍少佐 中村 福壽郎  
海軍大尉 中島 純一  
同 田崎 弘吉

敍勳八等授瑞寶章  
海軍技手 宮本 精一

○ 昭和十九年九月十二日發令  
海軍中將 福留 繁  
同 吉良 俊一

敍勳一等授瑞寶章  
海軍少將 松田 千秋  
同 磯部 淳  
同 海軍軍醫少將 神立 金作

敍勳二等授瑞寶章  
海軍大佐 大田 豊次郎  
同 藤田 菊一  
同 海軍軍醫大佐 矢島 重男  
同 海軍技術大佐 梶原 正夫  
同 海軍中佐 岡田 兵一郎  
同 田村 榮次  
同 遠藤 谷司  
同 乙丸 虎男  
同 大東 信市

秘海軍公報 號外(位勳)



秘海軍公報 號外(位勳)

<p>○昭和十九年八月十五日發令 海軍技術師 山田 貢</p> <p>○昭和十九年七月二十二日發令 海軍大尉 藤井 優</p> <p>○昭和二十年一月二十五日發令 海軍中佐 崎長 嘉郎</p> <p>○昭和二十年二月十四日發令 海軍中將 伊藤 整一</p> <p>敘勳一等授瑞寶章</p>	<p>○昭和十九年八月十五日發令 伊藤福三郎 同 同 海軍軍醫大尉 片木 正雄 加村 弘幸 大注 治 早川 五郎 得丸 芳次 松原 茂 増田 要 海軍主計大尉 村上 武夫 海軍技師 杉本 寛治 村上 宗雄 島田 義章</p> <p>○昭和十六年八月九日發令 地方警視 藤岡 政一</p> <p>○昭和十八年七月十四日發令 海軍技術大尉 飯野 武</p> <p>○昭和十九年一月十八日發令 海軍書記 浦田 秋義</p> <p>敘勳七等授瑞寶章</p>	<p>○昭和十六年八月九日發令 地方警視 藤岡 政一</p> <p>○昭和十八年七月十四日發令 海軍技術大尉 飯野 武</p> <p>○昭和十九年一月十八日發令 海軍書記 浦田 秋義</p> <p>敘勳七等授瑞寶章</p>	<p>○昭和十九年八月十五日發令 伊藤福三郎 同 同 海軍軍醫大尉 片木 正雄 加村 弘幸 大注 治 早川 五郎 得丸 芳次 松原 茂 増田 要 海軍主計大尉 村上 武夫 海軍技師 杉本 寛治 村上 宗雄 島田 義章</p> <p>○昭和十六年八月九日發令 地方警視 藤岡 政一</p> <p>○昭和十八年七月十四日發令 海軍技術大尉 飯野 武</p> <p>○昭和十九年一月十八日發令 海軍書記 浦田 秋義</p> <p>敘勳七等授瑞寶章</p>
--	--	---	--